

# 五 中国政情

## 1 兩広事件

816 昭和11年2月1日 在広東河相総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

胡漢民が国民政府中央に対して抗日など三大主張の容認を要求したとの情報について

広東 2月1日夜発  
本省 2月1日夜着

第三六號  
昨三十一日陳季博(政治、軍事學校教授)カ胡漢民ノ入京問題ニ關シ館員ニ内話セル所左ノ通り(出所部外秘)御参考迄胡ハ一月三十日當地在住中央委員、各省代表(現ニ胡出迎ノ爲來粵中ノ者約百人)及黨ノ中堅同志計約百八十名ヲ迎賓館ニ招待シ自分(陳)モ出席セルカ其ノ際胡ハ「自分(胡)ハ中央ニ對シ、抗日、政府ノ改造、清黨ノ三大主張ヲ南京ニ提出シ南京カ之ヲ容納セサル場合ハ入京セサル心組ナリ」

ト述ヘ其ノ口吻ヨリスレハ入京セサルヤノ感ヲ抱カシメラレタルカ其ノ他當地政界各方面ヲ奔り廻リ打診セル所ニ依ルモ陳濟棠、李宋仁<sup>(余)</sup>ハ未タ蔣介石ヲ信頼セサルノミナラス南京牽制策トシテモ胡ヲ入京セシメサルコト安全ナリトシテ引留メントスル意思アルモノノ如シ然レトモ孔祥熙、孫科、馬超俊、吳稚暉ノ四名二、三日中ニ中央ヨリ迎胡ノ爲來廣ノ筈ニシテ彼等カ胡ノ主張ヲ容納スル具体案ヲ持來ルニ於テハ如何ナル變化ヲ見ルヤモ知レサル處何レニセヨ王寵惠二月七日馬耳塞發歸國ノ途ニ就ク筈ナレハ之カ歸國後ニ於テ本件ノ決定ヲ見ルヘシ云々

支、北平、在支各總領事へ轉電シ香港へ轉報セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

817 昭和11年2月10日 在広東河相総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

外交路線などに關する胡漢民提案への蔣介石

### 回答振りについて

広東 2月10日後発  
本省 2月10日夜着

#### 第四三號

曩ニ胡漢民自ラ中央ニ對スル要求トシテ披露シタル三點

(往電第三六號參照)ト關聯アルモノト認メラルルカ客月末

楊德昭カ何應欽ヨリ得タル情報トシテ陳濟棠宛電報スル所

ニ依レハ蔣介石ヨリ胡漢民宛密電ヲ以テ外交路線ノ問題、

政府人事ニ關スル問題ニ付テハ大部分同意ヲ與ヘ黨權運用

ニ付テハ吏治ヲ除クノ外漸次重、財兩政ノ活動ヲ妨ケサル

範圍内ニ於テスト制限的同意ヲ與ヘタル趣委細ノ内容明カ

ナラサレトモ不取敢(出所極秘)

支、北平、在支各總領事へ轉電シ香港へ暗送セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

#### 第四九號

往電第四三號ニ關シ

諸方面探査ノ結果ヲ綜合スルニ今次胡漢民ノ蔣介石ニ對スル提案ハ各項ノ内容未タ詳カナラサレトモ

(一)外交路線ノ轉換

(二)軍權、政權ノ嚴格ナル劃分

(三)中央黨部ノ改組

(四)中央政府方面人事ノ入替

(五)金券辦法

ノ如クナルカ(一)、(二)、(四)ニ付テハ蔣ヨリ大體ノ同意ヲ與ヘタルモノノ如クナル處(二)ハ事實上ノ困難モ多ク蔣ハ兎モ角

先ツ胡ノ入京ヲ促シ入京ノ後ハ了解ヲ得ルコト難カラスト

テ具體的回答ヲ避ケ居ルモノノ如ク(前電黨權運用ノ件モ

亦此ノ内ニ含マレ居ルモノノ如シ)五ノ金券案ハ元來御承知ノ通り全國ヲ東、西、南、北、中ノ五區及蒙古、藏ノ二特

別區ニ分チ黨、軍、政ノ地方分權ヲ骨子トスルモノナルカ  
今次此ノ提案ハ感電所列ノ綱領ト異ルトテ蔣ハ同意セス

テ此ノ提案ニ付テハ未タ具體的決定ヲ見サル點多キ模様ナ  
ルカ一方中央ニ於テハ蔣ハ素ヨリ兩陳モ反對派ノ孔祥熙、  
宋子文モ總テ胡ノ入京ヲ促シ居ルニ反シ陳濟棠ハ胡ノ爲ニ  
計ルニ上策ハ留學、中策ハ入京、下策ハ許崇智案(内容不  
明)ト爲シ居リ胡ヲ引留メ香港ニモ歸ラシメス且當省民政  
廳長ニ胡ノ姻戚陳融ヲ据ヘ又廣州市長ノ席ヲ程天固ニ提供  
スル心組ナリトノ噂支那人政客ノ間ニ行ハレ居リ彼是ニテ  
胡モ急ニ足ヲ上ケテ入京スルコト今ノ所困難トナレルヤニ  
見受ケラル

支、北平、在支各總領事へ轉電シ香港ヘ暗送セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

819 昭和11年4月7日 在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

#### 西南勢力の対中央空氣に關し張群内話について

南京 4月7日夜発  
本省 4月7日夜着

第二八八號

本七日張群ハ胡漢民ハ陳濟棠等ニ引摺ラレ仲々北上ハセサ

820 昭和11年4月15日 在長沙高井(末彦)領事代理より  
有田外務大臣宛

西南勢力と国民政府中央との妥協は極めて難し  
いが武力衝突の恐れはないとの諜報について  
機密第一〇五號  
(接受日不明)

昭和十一年四月十五日

在長沙

胡ハ歸國當初入京條件ノ一トシテ蔣介石ニ對シ何鍵  
ヲ罷免シ陳嘉佑ヲ湖南省政府主席ニ又白崇禧ヲ福建  
省主席ニ据ヘンコトヲ要求セルカ右ハ何鍵ノ赴寧  
(二月十日長沙發同月十七日歸來)嘆願ノ結果立消ト  
ナレルカ三月三十一日來長セル司法院長居正ト同行  
來長セル國府委員周震麟ノ牒者ニナセル内話ニヨレ  
ハ差當リ胡カ入京ノ前提トシテ特ニ主張シ居ルハ國  
民黨ノ純粹化ニシテ即チ黨内ニ藍衣社CC團ヲ始メ  
黑衫黨(軍人ニ依リ組織セラル)乃至ハ青、紅、帑、  
哥老會員ノ介在スルコトハ黨ヲ濫ルル基ナリトテ極  
力之カ排撃ヲ主張シ居レル由ナルカ思フニ此等諸結  
論ハ蔣ノ「ファツシヨ」勢力ノ基幹ヲナシ艶テ其ノ  
大總統就任ノ際ニ於ケル重大ナル役割ヲ務ムヘキ使  
命ヲ有スル關係上胡カ聲ヲ大ニシテ之ニ反對シ黨中  
黨ノ排撃ヲ以テ其ノ入京條件トセルハ當然ノ成行ト  
見得ヘシ

二、陳方度(字闡良、黃花岡烈士ノ生殘リニテ胡漢民ノ舊友)

ハ最近西南派ノ密旨ヲ帶ヒテ來長シ(長沙文德里舊涵德  
學校ニ寄寓ス)同志ヲ集メ西南派ノ爲工作中ナルカ其ノ

ト大西南聯合辦法實行方ニ關シ協議セルカ若シ兩省當局  
トノ間ニ充分ノ諒解成立スルニ於テハ胡ハ斷然入京ヲ拒  
否シ一層強硬ノ態度ヲ持續スヘキモ萬一雲貴側ニ於テ兩  
廣トノ提携ニ不同意ヲ表明スル様ノコトアラハ第二ノ拒  
段トシテ同志ヲ各省ニ派シ下級軍人ニ反蔣遊說ヲ行ハシ  
ムル一方條件付ニテ入京スヘシ

註、胡ノ入京條件ハ多多アルヘキモ當館牒報ニ依レハ

ルヘキカ(外人間ニハ胡トノ會見印象トシテ胡ハ廣東ニ於  
テ體好キ軟禁ヲ受ケ居レリト電報シ居ルカ如ク現ニ六日來  
訪ノ「ヘラルド、トリビューン」ノ「キーン」も同様打電  
ハアラサル如ク現ニ陳維周ハ廣東幣制ヲ或條件ノ下ニ中央  
ニ合流セシメ差支ナキコト迄申出テ居ル程ニテ此ノ分ニテ  
ハ王寵惠位ヲ南下セシメ何トカ中央トノ折合ヲ良クシ得ヘ  
シト觀測シ居レリト語レリ

支、北平、天津、廣東、福州、廈門へ轉電セリ  
廣東ヨリ香港へ轉報アリタシ

目的ハ長沙ニ於ケル青、紅帮及哥老會ト聯絡シ有事ノ際ニ之ヲ利用セントスルモノニシテ表面ハ抗日救國ニ關スル會合ノ如ク粧ヒ寄々會合協議ヲ策シ居レルカ主タル會合場所ハ三個所(長沙肇嘉坪四十五號同鈞驥公館四、五號同小瀛洲内祭宅何レモ青帮ノ堂趾)(長沙青、紅帮ノ狀況ニ關シテハ本年一月十五日附機密第二二號拙信參照)ニシテ帮員、會員ハ計數千ニ達シ居レリ(本件策動ノ成否ハ不明ナルモ成行注意中)

### 三、胡漢民ハ討蔣ノ一方策トシテ既ニ蘇聯トノ提携ニ成功セリ

最近蔣ハ密使(註、陳果夫ノコトト思ハル)ヲ蘇聯ニ派遣シ提携方ヲ提議セルカ右ハ胡ト蘇聯間トノ間ニ密約成立ノ有無ヲ探査セントスル底意ニ出テタルモノナリ(蔣介石カ蘇聯ト接近シツツアルハ既電ノ通り覆フ可カラサルトコロニシテ右牒報ハ余リ穿チ過キタル節アリ)

四、粵漢、廣九兩鐵路ノ聯絡問題ニ關シ反對ノ急先鋒ヲナセルハ廣東有力華商七十二行ニシテ廣東當路者ハ反對ト云フモ敢テ絕對的反對ト云フ程ニ非サルカ中央トシテハ英國ニ對スル立場上右兩鐵路ノ聯絡ヲ應諾セサルヲ得サル

ナルヲ以テ西南側ニ於テハ今秋蔣ノ大總統就任成功セハ中央ハ必スヤ西南ニ對スル武力解決ニ乘出スヘシトナシ今ヨリ兵備ノ擴張ニ怠リナク兩廣ニ省ニ於ケル正規軍以外ノ出征可能ナル兵力ハ民團兵、軍事訓練ヲ經タル高等中學生及十五歳以上ノ學校童子軍ヲ合シ既ニ百萬ニ達スト見ラレ最近早クモ湖南、江西省境ニ重兵ノ配備ヲ了セリト傳ヘラル(註、拙電參照)

之ニ對シ中央側ハ三月初旬漢口ニ開催ノ湘贛三省聯防會議ノ結果兩廣討伐ノ場合陳誠ヲ總司令ニ、陳繼承ヲ總指揮ニ密令シ何時ニテモ剿匪名義ニテ江西、湖南及貴州ニ在ル十數箇師ノ中央軍ヲ其ノ指揮下ニ出動南下セシムル計劃ヲ樹テ居リ兩廣間ノ關係ハ表面上ハ免モ角内實ハ正ニ一觸即發ノ形勢ニアリ云々

要之中央對兩廣間ノ關係カ絞上ノ如ク水炭相容レサルモノアルハ事實ナルモ中央トシテハ時世ニ鑑ミ西南問題ハ飽ク迄平和的ニ解決セン腹ナリトハ諸說ノ一致スルトコロニシテ現ニ本月四日着滬ノ王寵惠ハ正面的ニ中央、西南間ノ調停ニ立チ居ル人物ト見ラレ又司法狀況視察ト稱シ三月三十日來長本月六日南京ニ向ヘル司法院長居正ハ側面的ニ調

破目ニ在リテ廣東側ニ對シテハ全國鐵道統一、國防上ノ必要等ノ理由ヲ擧ケテ之ニ對スル同意ヲ取付ケントシツツアル處廣東側兩鐵路聯絡ニ對スル交換條件トシテ當初黃埔港築港費五百萬元ノ支出ヲ要求セルニ中央側ニ於テ時節柄ヲ考ヘテカ案外アツサリ右交換條件容認ノ色ヲ見セタル爲廣東側ハ狼敗シ七十二行ヲ唆シ更ニ反對ノ火ノ手ヲ上ケシメ居リ一度協定成立ト見ラレタル本問題モ成行逆睹シ難クナレリ

五、廣東政府ハ中央ニ對シ粵漢鐵道開通ノ署廣東省境內ノ護路軍警及管理職員ハ廣東側ヨリ之ヲ派遣シ省内ノ鐵道收入ハ廣東政府ニ歸スヘキ旨ノ要求ヲ提出セルカ右ハ中央鐵道部ノ全國鐵道統一管轄ノ權限ヲ破ルモノトシテ中央ハ之ニ應諾ヲ與フル模様ナク又廣東側ニテモ防備上事重大トシテ一步モ讓ル氣色ナキ處今次鐵道部長張公權カ粵漢鐵路工事視察ノ爲ト稱シ當地經由赴粵(三月八日漢口ヨリ長沙着、同月十日衡州發赴粵)セル眞ノ使命ハ實ハ本項及前項ノ兩問題ヲ解決スルニ在リシナリ

六、上述ノ通り中央、兩廣間ニハ幾多ノ難問題横リ居リ而カモ其ノ何レトシテ相互間ノ利害感情背馳セサルナキ有様

停ニ立テル人物ノ趣ニテ南嶺ニ於テ(本月三日同地ニ滯在)胡木蘭乃至鄒魯ト會見懇談セルヤノ牒報アル(眞相不明)ノミナラス前顯張公權ノ如キモ廣東ヨリ胡漢民ヲ誘ヒ歸京スル計劃ナリシカ如ク傳ヘラ居リ斯ル芝居掛リノ斡旋カ何等奏功セスト假定スルモ今日ニ於ケル國民全體ノ政治意識ハ大分往時ト異リ居リ先ニ戈ヲ執リタル者カ敗ケトナリテ全國民ノ信望ヲ失フコト必至ナレハ中央西南間ニハ先ツ武力衝突ノ恐レ無シトスル當地識者及政府要人ノ一致シタル意見ハ此際或程度信憑ニ值スト認メラル

何等御参考迄右報告ス

本信寫送付先 大使 北平 上海 南京 漢口 廣東

九江 沙市 宜昌 重慶 雲南

821 昭和11年5月25日 在中國武藤大使館一等書記官より  
有田外務大臣宛(電報)

北平での胡漢民追悼会における抗日ビラ撒布

について

北平 5月25日後発  
本省 5月25日夜着

第一四〇號

當地ニ於ケル胡漢民ノ追悼會ハ宋哲元、秦德純、陳中孚、蕭振瀛、張自忠等二十八名ヲ以テ胡主席治喪委員會ヲ設ケ

二十五日ヨリ三日間中山公園内ニ於テ第一日ハ外交團及支那側各機關、各新聞社、第二日ハ中等以上各學校、第三日ハ小學校及一般市民參列ノ上之ヲ行ヒ會期中支那側ハ一般

ニ半旗ヲ掲揚シ娛樂ヲ停止シ毎日正午禮砲ヲ發射シ飛行機ヨリ追悼ノ傳單ヲ撒布スルコトトナリ本日其ノ第一日ヲ迎

ヘタルカ極メテ靜肅ニ式ヲ終レリ尙陸軍武官室ニ於テハ二十四日右會場ニ於テ配布セル傳單ヲ入手セル處右ニハ胡漢

民ノ肖像及略歷ノ外ニ廣東發閣下宛電報第一一二三號ノ抗日スルニアラサレハ民族主義ヲ實現スル能ハストノ文句ヲ含

メル遺囑ヲ印刷シアリシ爲同日今井武官ヨリ陳中孚ニ質シタルニ陳ハ右ハ百枚程廣東ヨリ送付越シタルモノニテ自分ハ之カ撒布ヲ差止メ置キタルモノナルカ何人カ勝手ニ之ヲ配リタルモノナルヘク直ニ之ヲ取止ムヘシト辯解セル趣ニ

テ本日ハ右傳單ノ撒布ヲ見スシテ終レリ  
支、在支各總領事、滿ヘ轉電セリ

822 昭和11年6月5日 在廣東河相總領事より 有田外務大臣宛(電報)  
抗日通電後之陳濟棠・李宗仁ら西南將領の動  
静について

廣東 6月5日後發 本省 6月5日夜着

第一七一號

往電第一六〇號ニ關シ

一、陳濟棠、李宗仁以下第一、第四集團軍各將領ハ四日中央黨部國民政府ニ對シ西南政務委員會ノ抗日通電ヲ讀ミ坐視シ難シ速ニ北上抗日ノ命令ヲ與ヘラレ度キ旨電請シ同

時ニ之ヲ全國ニ通電セリ

二、同日正午民衆各團體代表約一千名省參議會ニ於テ抗日救國請願大會ヲ開催シ抗日「スローガン」ヲ高唱シ抗日ノ引幕ヲ抑立テ政務委員會ニ赴キ陳濟棠、李宗仁ニ面會シ民衆ノ武力ヲ率ヒ抗日ノ爲出動方請願セリ

支へ轉電セリ

支ヨリ南京、漢口、北平、天津、長沙へ轉電アリタシ

823 昭和11年6月7日 在中國若杉臨時代理大使より 有田外務大臣宛(電報)

抗日標榜の風潮に鑑み西南勢力の決起に対し  
てわが方陸軍は指導的ないし協力的立場には  
ないと観察報告

上海 6月7日後發 本省 6月7日夜着

第四一八號

廣東發本官宛電報

第三三號

外務大臣宛貴電第四〇九號ニ關シ

今次西南ノ旗擧ニ幾何程度ニ白田カ參畫シ居タルヤ未タ本人ナリ西南側ヨリ聽取り居ラサルモ彼等旗擧ノ主タル動機カ自己保存ニアルコト夫レカ爲早晚免レ難キ場面ニ打付カ

リタル迄ノコトナルハ爭フノ餘地ナク他力ニ動カサレテ茶氣ヲ出シタルモノニアラス(旗擧ノコトニ付テハ曩ニ本官

ヨリ外務大臣ニ提出シ置ケル「西南三派ト反蔣運動」中ニモ述ヘ置ケリ尙迭次ノ拙電參照アリタシ)唯日本陸軍ハ安

價ニ武器、彈藥ヲ賣ル爲彼等ニ利用サレタル關係アリ或ハ

穿ツテ言ヘハ相互利用ノ關係モアリタルナルヘシ尙又西南ト宋哲元トノ聯絡ニ付テモ彼等ハ陸軍ヲ若干利用セル關係モアルヘシ夫等ノ關係上自然彼等内部ノ打明話モ相當程度ニハサレタルナルヘシ乍併陸軍側力計畫ノ指導的乃至ハ協力的立場ニアラサリシコトハ今次ノ反蔣運動カ免ニモ角ニモ抗日ヲ高ク標榜シテ起チ且事前、事後ニ如何ニ惡ドク抗日風潮ヲ煽リ居ルカノ事實ニ徵スルモ明カナリ尙今次ノ旗擧カ決定的ニ倒蔣運動トシテ終始スルヤ否ヤ未タ遽ニ逆睹スヘカラス種々想像スヘキ餘地アリ大東ナリ興中公司ナリカ當地ニ於テ陸軍ノ御用ヲ務ムルハ餘リニモ顯著ノコトナリ從テ大東記者邊ノ話ハ其ノ儘ニハ受取り難キ事情アリ本件ニ對スル我方今後ノ對策ヲ定ムル上ニモ本件ノ本質ニ付テハ明<sup>(鑑)</sup>難ナル把握ヲ爲シ置ク必要アルニ付御參考ノ爲卑見不取敢申進ス

大臣、北平、南京、天津へ轉電シ上海へ轉報アリタシ

824 昭和11年6月7日 在南京松村總領事代理より 有田外務大臣宛(電報)

西南勢力の決起に対し國民政府中央は統制に

服さなければ断乎武力解决する意向であり対

抗準備進行中との情報について

南京 6月7日後発  
本省 6月8日前着

第四二六號

本官發廣東宛電報

第二號

貴電合第一四號ニ關シ

四日例ノ同盟通信發表セラレテヨリ中央當局ハ新聞其ノ他ヲ利用シ廣東側要人、孫科、馮玉祥等ノ強ク之ヲ否定セル談話ヲ發表スルト同時ニ在外使臣ニ對シテモ右通信ハ日本カ爲ニセントシテ捏造セルモノニシテ事實無根ニ付其ノ含ニテ善處スヘキ旨電訓スル等之力反駁撫消ニ躍起トナリ表面何事モナキカ如ク裝ヒ居レルカ一方支那側軍部筋ヨリ得タル當地陸軍武官室情報等ヲ綜合スルニ中央側ハ西南ノ底意ハ如何ニモアレ現今兩廣ノ狀況ヨリセハ西南側カ兵ヲ武漢方面迄進ムルカ如キコトハ殆トアリ得ヘカラサルヘキモ萬一右ノ如キコトアリトスルモ表面ハ別ニ反蔣ヲ標榜スルモノニハアラサルニ付中央トシテハ之ヲ解決シ得ヘキ名分

立ツ迄ハ何等拘束ヲ加ヘス放置シ置キ右等軍隊カ中央ノ統制ニ服セハ良シ若シ反抗的態度ニ出ツル等ノ場合ニハ斷乎武力解決ヲ行フ肚ニテ目下ノ處何等西南側ニ對抗スヘキ兵力ノ集中等ハ行ヒ居ラサルモ必要ナル準備計畫ハ着々樹テ居ル趣ナリ

大臣、支、漢口へ轉電セリ

漢口ヨリ長沙へ轉報アリタシ

825 昭和11年6月10日 在天津田尻總領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

西南勢力からの抗日決起慾懃に宋哲元は呼応

せずとの見通しについて

天津 6月10日前発  
本省 6月10日後着

第三三九號

西南側ヨリハ宋哲元等當方面ニ對シ頻リニ南北呼應シテ起タンコトヲ慾懃シ來リ居ル處宋ハ北方ノ事態ヨリ考ヘ其ノ時機ニアラサルノミナラス萬一敗戦セハ中央ノ鋒先ハ廳テ北方ニ向ケラルコト明白ナルニ付右申入ニ對シテハ體好

ク断リ居ル趣ニシテ我軍ニ於テモ同様ノ見方ヲ爲シ居ル處西南ハ長沙迄進出ノ上ハ抗日ノ看板ヲ塗替ヘル意図モアル由ニテ寧ロ此ノ際名目ニ捉ハレス五省自治ノ確立ニ利用スヘシトノ論モナキニアラス御参考迄

支、北平、南京、廣東、青島、濟南へ轉電セリ

826 昭和11年6月11日 在上海石射總領事より

有田外務大臣宛(電報)

西南抗日決起および上海方面の排日傾向に關

し吳鉄城市長と会談について

上海 発  
本省 6月11日夜着

第二二九號

<sup>(1)</sup> 最近ノ密輸問題並ニ天津軍増強問題等ニ關聯シ當地漢字新聞カ盛ニ日本側攻撃ヲ爲シ又市商會始メ各種同業公會等モ政府ノ方針ニ協力スヘキ旨宣言乃至通電等ノ發表ヲ爲シタル次第ハ大使館並ニ當館累次ノ往電ノ通ナル處右ハ却テ當地過激學生及反動分子等ノ乗スル所トナリ既報五、三〇當日ノ反日大示威游行ヲ始メトシ又復各種ノ反日乃至反政府

策動開始セラルニ至リタルカ今般更ニ西南派ノ抗日救國ヲ表看板トスル反中央軍事行動勃發スルニ及ヒ右ニ刺戟セラレ當地方對日空氣ハ漸次惡化セントスル傾向アルヤニ看取セラレタルヲ以テ本官ハ本十一日吳市長ヲ往訪シ前記最近ニ於ケル諸般ノ情勢ニ鑑ミ支那側ニ於テ此ノ際當地方民衆ノ排日運動取締ニ充分努力セラレンコトヲ要望スル旨申入レタル處吳市長ハ西南派今次ノ軍事行動ハ表面抗日救國ト言フモ其ノ眞ノ目的ハ中央政權打倒ニアリ

中央ニ於テハ目下折角西南派說得ニ努メ居ルモ西南カ之ニ應セサレハ結局戰フヨリ外ナカルヘク今回ノ西南ノ行動ハ民衆ヲ刺戟スルコト甚タシク從來ヨリ支那民衆ノ對日空氣緩和ニ種々苦心シ來レル中央ノ立場ヲ一層困難ナラシメタルハ事實ナルモ之カ救濟策トシテハ先ツ西南派ノ抱懷スル眞意カ抗日ニアラスシテ内爭ニアル所以ヲ充分ニ民衆ニ徹底セシムルニアリト思料シ種々工作中ナルカ(上海市商會、地方協會、銀行協會、錢業公會、輪船公會、市民聯合會及市農會等カ十日目下支那カ一致國難ニ當ルヘキ重大時機ニ際シ西南將領カ中央ノ意ニ反シテ濫リニ兵ヲ起サントシツアルニ反對ナル旨ノ通電乃至宣言ヲ發表シ居ルハ政府ノ

指金ナルヤニ察セラル)上海ニ關スル限り一般民衆ノ排日  
防止策ニ付テハ自分ニ充分ノ確信アルニ付御安心ヲ請フ云々  
ト述ヘタリ

吳市長ノ談話ハ發表セラレサル様願度シ

北平、廈門、在支各總領事へ轉電シ支へ轉報セリ

827 昭和11年6月12日 在福州中村總領事より 有田外務大臣宛(電報)

西南抗日決起が及ぼした福建省党部や学生団  
体などの反日姿勢について

福州 6月12日後発  
本省 6月12日夜着

#### 第九一號

抗日ヲ標榜セル西南ノ出兵ハ當地一般ニ多大ノ衝動ヲ與ヘ  
タル模様ニテ一般支那商ハ日貨ニ對シ著シク警戒手控ヲ加  
ヘ又抗日出兵ニ血ヲ湧カシタル學生中ニハ商店ニ日貨抵制  
ノ傳單ヲ散布セル者アリ

尙當地省黨部、三大學、二十一中學、各種工人組合及商會  
等ハ夫々中央黨部ニ對シ『東北失地回復セラレサルニ敵ハ

支、在支各總領事、廈門、汕頭へ轉電シ臺灣外事課長へ暗  
送セリ

天津ヨリ北平へ、支ヨリ上海へ、廣東ヨリ香港へ轉報アリ  
タシ

828 昭和11年6月13日 在廣東河相總領事より 有田外務大臣宛(電報)

#### 抗日救國巡行大会の開催状況について

廣東 6月13日後発  
本省 6月13日夜着

#### 第一〇七號

#### 往電第一〇四號ニ關シ

廣東 發  
本省 6月14日前着

#### 第一〇八號(極秘)

政府各機關職員、省市黨部員、學生團體、民間諸團體聯合  
ノ抗日救國巡行大會ハ本日午前九時半ヨリ開始セラレタル  
力參加人員無慮二萬五千名巡行隊ハ八隊ニ分レ騎馬ノ指導  
員指揮ノ下ニ樂隊ヲ先頭ニ抗日ノ字幕ヲ押シ立テ一致抗日  
救國誓死收回失地等記載セル手旗ヲ持チ抗日「ビラ」(倒  
蔣「ビラ」見當ラス)ヲ多數散布シツ市内ヲ游行シタル  
力沿道多數ノ商店ハ閉店シ公安局員、憲兵嚴重警戒ニ當リ  
沙面租界附近通過ヲ禁止シタル爲何等事故無ク午後三時散  
會セリ尙稅關長ハ萬一ヲ慮リ邦人稅關吏ニ對シ本日一日休  
暇ヲ與ヘタリ又苦力游行ニ參加ノ爲荷役休止サレタリ  
支、北平、在支各總領事、汕頭、廈門へ轉電シ香港へ暗送  
セリ

支ヨリ上海へ、漢口ヨリ長沙へ轉報アリタシ

829 昭和11年6月14日 在廣東河相總領事より 有田外務大臣宛(電報)

抗日宣伝の即時中止および排日運動取締を西  
南側へ嚴重申入れについて

進展に伴う逐次転換を李宗仁示唆について

廣東 發  
本省 6月16日後着

更ニ平津ニ増兵シ密輸ヲ行ヒ武力、經濟併行シテ我國ニ迫  
リ來レリ此ノ危急存亡ノ秋敵ノ「以華制華」策ニ乘セラレ  
タル西南ノ出兵ハ國ヲ亡スモノナリ嚴重制裁ヲ加ヘラレ度  
シ』トノ同趣旨電報ヲ出シ西南ニ對シテハ『此ノ國家危急  
ノ際日本ノ「以華制華」策ニ乘セラル勿レ最後ノ決心ヲ  
爲スヘキ秋ハ我等亦銃ヲ取りテ起ツヘシ』トノ同趣旨電報  
ヲ發シ其ノ措辭從來ト異リ反日感情ヲ著シ露骨ニ表白シ  
居レリ

支、在支各總領事、廈門、汕頭へ轉電シ臺灣外事課長へ暗  
送セリ

天津ヨリ北平へ、支ヨリ上海へ、廣東ヨリ香港へ轉報アリ  
タシ

830 昭和11年6月16日 在廣東河相總領事より 有田外務大臣宛(電報)

廣東 6月16日後発

抗日宣伝の即時中止および排日運動取締を西  
南側へ嚴重申入れについて

本省 發  
本省 6月16日後着

## 第二一一號

往電第一〇八號ニ關シ

十三日附公文ヲ以テ陳濟棠ニ對シ抗日宣傳ヲ止メ排日運動取締方嚴重申入レ更ニ本官ハ本日陳ニ會見ヲ求メタル處陳ハ多忙ト稱シ會見ヲ避ケタルニ付吉竹ヲシテ秘書長梁植槐ヲ往訪セシメ本官抗議文ノ趣旨ヲ敷衍シ西南當局カ抗日ヲ内爭ノ具ニ供シ且日本國家ノ名譽ヲ毀損スルカ如キハ斷シテ默視シ難キ所ナルヲ以テ速ニ抗日宣傳ヲ止メ民衆ノ排日運動撫アリ度キ旨申入レ若シ抗日運動ノ結果兩國民間ニ不祥事件惹起セハ支那側ノ責任ナリト警告シ學生カ暑中休暇ヲ利用シ抗日宣傳隊ヲ組織シ奥地地方巡行ノ計畫アル旨新聞ニ報道サレアリ右事實ナラハ禁止サレ度キ旨申入レシメタル處梁ハ申出ノ次第ハ陳ニ報告スルモ元來抗日運動ハナルカ之ニ先立チ本日ノ各漢字紙ハ駐粵日領事愛國運動ニ干涉ストノ大見出ヲ附シ冒頭警告ノ件ニ付稍「センセーシヨナル」ナル記事ヲ掲載セリ

尙前電所報十三日ノ游行ハ出動人員二十萬人ト宣傳サレタルモ實數ハ二萬四、五千ニ過キス且苦力下級労働者ニ日給

同日廣東發路透ハ河相總領事ヨリ陳濟棠ニ强硬ナル抗議ヲ爲シタルカ右ハ新タル日支危局ノ發端トナルヘキ惧アリ（漢字紙廣ク引用ス）ト報シ  
十六日廣東發路透ハ日本ノ抗議ニ對シ廣東當局ハ抗日運動ハ國民感情ノ發露ナルヲ以テ之ヲ抑壓スル能ハスト撥付ケタル結果日支關係惡化ヲ豫期セラレ一般ノ注意ハ内政問題ヨリ轉シテ日支關係ニ向ケラレツツアリト報シ居レリ  
支ヘ轉電シ廣東へ暗送セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

~~~~~

832 昭和11年6月27日 在広東河相總領事より

有田外務大臣宛（電報）

抗日運動取締に關するわが方抗議に対し西南側反駁について

広 東 発  
本 省 6月27日夜着第二四〇號  
往電第二一四號ニ關シ

本官ハ更ニ十九日附公文ヲ以テ陳濟棠ニ對シ抗日運動取締

ヲ與ヘ狩出シ游行ニ加ヘシメタル事實アリ一般ニ擬裝抗日ノ評判市中ニ傳ハリ彼是ニテ甚々氣勢揚ラス「ボスター」

ノ字幕ノ如キモ破り取ラレタルモノ多數見受ケラレ今回ノ遊行ハ當日限りノ騒ニテ些カ龍頭蛇尾ノ感アリ

支、在支各總領事、廈門、汕頭へ轉電シ香港へ暗送セリ支ヨリ上海へ轉報アリタシ

831

昭和11年6月17日 在香港水沢（孝策）總領事より

有田外務大臣宛（電報）

抗日運動は國民感情の發露であるとして西南側がわが方抗議に反駁したため日中關係悪化を懸念する英字紙報道について

第六八號

西南ノ時局ニ關スル英字紙ノ報道振左ノ通

十五日廣東發「モーニング、ポスト」紙特電ハ廣東軍ハ湖南引揚ヲ命セラレタルモ新聞、「ラヂオ」、「ポスター」等ニ依リ排日運動ハ依然續行セラルト報シ

香港 6月17日後発

本 省 6月17日後着

第五四三號（極秘？）

支發貴大臣宛電報第五〇〇號ニ關シ

南京 6月29日夜発  
本 省 6月29日夜着

意見具申

833 昭和11年6月29日 在南京須磨總領事より

有田外務大臣宛（電報）

西南勢力の擬裝抗日を明確にする必要につき

右電報ノ趣旨ハ至極尤ニシテ西南側當初ノ偽裝抗日ハ最早退引ナラサル至誠抗日ト化シ居ル實狀ナルノミナラスニ中全會ニ於テ更ニ抗日斷行等ノ討議ヲ要求シ右容レラレサルニテハ自派委員ヲ上海ニ留メ赴寧セシメサル計畫ナリトノ情報モアリ此ノ際五月十三日陳維周ノ河相總領事ニ對ス

ル申入（廣東發閣下宛電報第一二六號）六月三日李宗仁ノ同總領事ニ對スル傳言（廣東發閣下宛電報第一六七號）冒頭電報李宗仁ノ言明等ヲ一中全會直前頃ニ正確明細ニ發表シ西南側ノ假面ヲ剥キ置クコト同派最近ノ對日態度ニ鑑ミ日支關係ノ全局ヨリシテ必要且有效ノ策ナルヤニ思料セラル御参考迄

支、北平、天津、廣東へ轉電セリ

834 昭和11年7月(6)日 在福州中村總領事より 有田外務大臣宛（電報）

排日取締など蔣介石の日中關係改善政策を理解し西南問題において蔣を支持するよう陳儀切望について

第三三三號 福州 本省 7月6日夜着 発

四日離任ノ挨拶ヲ兼ネ陳儀ヲ往訪シ長時間會談ノ機會ヲ得タル處陳儀ハ五日二中全會出席ノ機會ニ日支關係改善ニ關シ蔣介石等要人ニ進言ノ積リナリト前提シ

(一)日本軍部ハ今日迄西南ニ好意ヲ寄セラレ反蔣運動ニ同情セラレタルニ拘ラス今回ノ西南ノ抗日救國軍トナリタリ、蔣介石ハ四方ノ攻撃ヲ受ケ乍ラモ兔ニ角排日ヲ取締リ日支貿易モ増加シ來リタルコトナレハ此ノ際ハ現在支那ノ最有力者タル蔣介石ニ同情ヲ寄セラレンコトヲ切望ス目下ノ日支關係ハ互ニ疑念ニ満チ居リ遺憾ニ堪ヘス互ニ全幅信賴ノ境ニ進ミ度シ過去ニ於テ日本ト提携セントセシ者ノ最後ハ皆悲慘ナリ黃郛モ隱レ何應欽モ亦落目ニアリ日本ハ親日派ノ將來ニモ考量アリ度シ（ト述ヘ）

(二)本官ヨリ蔣介石治下ノ歐米依存及全國的抗日準備ト事實ヲ擧ケ支那側ノ態度モ改善ノ必要アルコトヲ力説シタルニ對シ支那側ニモ改ムルヲ要スル點アリト率直ニ認メ唯抗日準備ナルモノハ總テ防禦的ナルノミナラス専門的軍事眼ヨリ見レハ兒戲ニ類スルモノニシテ之ヲ以テ日本ニ對抗シ得サルハ何人モ知悉シ居ルモ唯對日防禦成レリト說明シ民衆ニ安心ヲ與フル材料ニ過キサルニ付寛容セラレンコトヲ希望ス

(三)安溪鐵山調査ハ引續キ滿鐵ノ協力ヲ得度ク秩序恢復ノ上ハ試掘ハ必ス續行ノ決心ナリ

(四)福州市水道モ第三國ニ依頼スルカ如キコト絶對ニナキニ付本官離任後モ御安心アリ度シ

ト述ヘ最後ニ長時間答ノ上往電第一三一號中華滙業銀行借款ノ參考整理案ヲ協議セリ

支、滿、北平、在支各總領事、廈門へ轉電セリ

835 昭和11年7月(10)日 在中國川越大使より 有田外務大臣宛（電報）

西南勢力の抗日態度転換拒絶に対し改めてわが方立場を鮮明にすべき旨意見具申

付記一 起草日不明、有田外務大臣より在中国川越大使宛電報案

西南勢力の抗日態度に対し嚴重抗議方廣東総領事宛訓令發出について

二 起草日不明、有田外務大臣より在廣東河相總領事宛電報案別電案

右訓令

本省 上海 発  
7月10日夜着

第五二三號（極祕）  
貴電第一六〇號ニ關シ

西南側ノ抗日態度ヲ變更セシムル爲今一應警告ヲ發シタル上當地等ニ於テ適宜發表セラレントスル御趣旨ハ尤モノ儀ナルモ西南側カ現ニ依然トシテ抗日宣傳ヲ繼續シ居リ曩ニ河相總領事ヨリ二回ノ申入ニ對シテモ却テ之ヲ反擊セル事實竝ニ其ノ立場等ニ徵シ右我方ノ警告ニ依リ容易ニ其ノ態度ヲ改メサルヘシト存セラル

元來廣東宛貴電第四三號ノ（一）ノ如ク西南側ト南京政權トノ對立的關係ヲ利用シテ南京政權ノ對日態度ヲ是正セントシ又ハ西南及北支ニ親日地域ヲ建設シテ南京政權ヲシテ親日ニ轉換セシメントスルノ法案ハ過去ニ於テ相當ノ效果ヲ收メ今ヤ南京始メ各地政權ハ其ノ權力維持ノ爲ニハ日本トノ關係ヲ改善スルノ要アルヲ認識スルニ至リタルハ事實ナルモ他面支那全土ニ亘リ今猶排日感情ノ存シ居ルモ亦事實ニシテ西南側ハ自己勢力ノ保存上南京側カ對日關係ノ緩和ニ依リ其ノ勢力ヲ伸張セシコトヲ妨害スル必要ニ迫ラレ此ノ排日感情ヲ利用シテ斷然抗日ヲ標榜スルニ至リタル事情ハ御承知ノ通ナルヘク之ニ對シテハ前記方策トハ別ニ直ニ有

効ノ措置ニ出ツル必要アルコト勿論ノ儀ナル次第ナレハ  
我方トシテハ此ノ際苟モ抗日、排日ヲ標榜スル者ハ其ノ地  
方、黨派又ハ目的ノ如何ヲ問ハス斷乎トシテ之ヲ排撃スル

ト同時ニ苟モ真ニ日本ト提携合作スルモノハ其ノ何人タル  
ヲ問ハス等シク之ヲ支援スルモノナリトノ帝國ノ嚴肅且公

正ナル態度ヲ天下ニ表明スルヲ機宜ノ措置ト思考ス是往電  
第五〇〇號稟申ノ趣旨ニ外ナラスシテ右ハ素ヨリ特ニ西南

側ニ對シ壓迫ヲ加ヘ又ハ南京政權ヲ援助セントスルモノニ  
アラサルハ勿論寧ロ此ノ機會ニ於テ支那全國ノ官民ヲシテ

一般的ニ前記帝國ノ肅正ナル態度ヲ認識セシメ西南側ノ運動ニ依リ挑發セラレ居ル排日氣勢ノ擡頭ヲ抑壓セントスルニアリ

從テ前記ノ聲明ハ二中全會開會前適當ノ時機ニ中央ニ於テ  
發出スルヲ必要ト思考セルモ既ニ其ノ機ヲ逸セルノミナラ  
ス現ニ二中全會ニ於テ西南側ノ抗日方針カ論議セラレ居ル  
際ニ此ノ種聲明ヲ出スハ却テ逆ノ效果ヲ生スル惧モ有之旁々

冒頭西南側ニ對スル警告ノ結果乃至ハ二中全會ノ模様如何  
ヲ見タル上成ルヘク速ニ中央ニ於テ右趣旨ノ聲明ヲ發セラ  
ルル様重ネテ御考量ヲ請フ

(陸軍武官ニ話済)  
北平、天津、南京、廣東へ轉電セリ

貴電第五〇〇號ニ關シ  
(付記一)

電 第五〇〇號ニ關シ

陸海軍側トモ打合ノ上不取敢廣東總領事ニ對シ別電(廣東宛第△號)ノ通り訓電スルコトトセルニ付テハ委細右ニ依リ御承知相成度

尙外部ニ對スル措置トシテハ右申入ノ結果ヲ見タル上貴地等ニ於テ適當ノ方法ニ依リ漸次警告ノ内容ヲ適宜洩ラスト共ニ右ニ關聯シ我方ノ公正ナル態度ヲ闡明スルコト可然シト存セラル

北平、南京、天津、廣東へ轉電セリ

編注 本電報案は、昭和十一年七月七日に発電された。

(付記二)

支宛往電第〇號ニ關シ  
一、西南ニ對スル帝國ノ方策ハ同方面ニ於ケル我方權益ノ伸

張ヲ計ルト共ニ同政權ト南京政權トノ對立的關係ヲ利用シ南京側ノ對日態度ヲ是正セントスルニアルコト御承知ノ通ニシテ西南及北支ニ親日地帶ヲ建設シ蔣政權ヲシテ漸次親日的政策ニ轉換スルノ已ムナキ境地ニ立チ至ラシメントスルハ我對支政策ノ要諦ナリ(昭和九年十二月七日附對支政策參照)然ルニ打倒蔣介石ヲサヘ叫ベバ帝國政府ノ歡心ヲ求メ得ルモノト誤解シ南京側ノ抗日ヲ要請シ居ル西南側ノ態度ハ前記帝國政府ノ根本方針ヲハキ違ヘタルモノニシテ右ハ軍事教官ノ派遣、武器賣込等ノ形式ニ依ル帝國從來ノ對西南政策ノ眞意、西南側ニ充分徹底シ居ラザル結果ト認メラルニ就テハ支來電第五〇〇號ニ對スル差當リノ措置トシテ中村總領事ノ着任ヲ機トシ同總領事ヲシテ左記「ノーライン」ニ依リ措置セシムルコトトセリ、中村貴地着ノ上ハ右御傳ヲ乞フ

二、臼田及北浦武官同道ノ上陳濟棠、李宗仁等ニ對シ中村總領事ヨリ口頭ヲ以テ前記我方ノ西南ニ期待スル所ヲ可然說明スルト共ニ「我方トシテハ往電第三三號警告ニ依リ西南側ハ我方ノ存意ヲ了解シ漸次抗日ヲ撤回スルモノト期待シ隱忍情勢ヲ注視シ來レル次第ナルガ今後西南側ニ

編注 本電報案は、昭和十一年七月七日に発電された。

昭和十一年七月十四日 在中國川越大使より

有田外務大臣宛(電報)

第二九九號

上 海 7月14日後発  
本 省 7月14日夜着

第五三四號

十三日廣東ヨリ天津ニ赴ク途次當地ニ立寄リタル A.F.カ館員ニ語ル所ニ依レハ在廣東英國總領事ハ陳濟棠等ニ對シ反蔣戰争ノ無暴ナルヲ說キ之ヲ思止マル様勸告シ思止マルニ於テハ南京トノ間ヲ斡旋スヘシト說キ居レルカ陳等ハ之ヲ拒否シ西南ハ抗日ヲ主張スルモノナリト答ヘ居ル趣ニテ廣東ニ於テハ一般ニ同總領事ハ南京政府ノ意ヲ爲シ居ル由ナリルモノト見居ル由ニテ又唐海安ハ香港ニアリ莫大ナル資金ヲ擁シ英國人ヲ手先ニ西南側買收工作ヲ爲シ居ル由ナリ北平、南京、天津、廣東、香港へ轉電シ上海へ轉報セリ

837 昭和11年7月20日 在廣東中村總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

陳濟棠亡命後の善後措置に関する余漢謀廣東

綏靖主任密電の内容について

廣 東 發  
本 省 7月20日夜着

838 昭和11年7月22日 在廣東中村總領事より  
有田外務大臣宛(電報)  
支 北平、在支各總領事、廈門へ轉電セリ

日本の廣東空軍援助工作に関する報道は事実

無根である旨ロイターおよびヒューリー通信へ抗議

について

廣 東 7月22日後発  
本 省 7月22日夜着

第三〇三號

二十日香港「サウス・チャイナ・ポスト」紙及其ノ他ノ漢字紙ハ廣東通信トシテ陳濟棠ハ下野前三百萬弗ヲ投シ日本ヨリ飛行機百機購入シ既ニ二十機廣東ニ到着セリ又陳ハ日本軍事教官等七十名ヲ招聘シ彼等ハ現ニ沙面都「ホテル」等ニ宿泊中ニシテ廣東空軍ハ日本教官ノ指揮下ニアリトノ「アラーミング」ノ記事ヲ掲載セルヲ以テ當地路透及U.P.ニ對シ右ハ全然事實無根ナリト說明シ置キタリ

尙漢字紙ノ報道ニ依レハ十八日余漢謀ハ在廣州各將領ニ宛テタル電報中ニ日浪人ノ行動ヲ嚴密取締方申越シタルニ對シ十九日何攀ハ廣州市ニハ某國ノ浪人ナキ旨返電セル旨公表セラレタリ

支、北平、南京、漢口、天津へ轉電シ香港へ暗送セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

陳濟棠離廣後ニ於ケル當座ノ政治治安ニ關シ十九日午前三時余漢謀ハ在廣中ノ第五軍長繆培南、憲兵司令李樹宗及公安局長何鑾等三名ニ宛テ密電ヲ以テ「先刻陳濟棠ヨリ政權引渡ニ關スル十八日附電報ニ接シタル處偶々張達部隊(第二軍)全部ノ中央歸服ヲ豫想シ居ルト道路ノ修復サレサル個所多キ爲諸事緒ニ就キ次第直ニ歸廣シ諸兄ト善後措置ヲ商議スルコト致度シ」トテ左ノ如ク依頼スル所アリタリ、責任ヲ以テ陳濟棠離廣後ニ於ケル治安金融等ヲ維持シ人民及軍警全体ニ對シテハ特ニ能ク慰勉死ヲ以テ人心ノ安定ト大局ノ確定ヲ期スルコト

二、民政、財政ニ關シテハ既ニ林雲陔ニ對シ歸粵ノ上中央ノ命ヲ受ケ一切ノ處理方電請シ置キタルモ夫迄ノ間關係當局ト共同シ暫ク現狀ヲ維持スルコト(出處極秘)

839 昭和11年7月22日 在廣東中村總領事より  
有田外務大臣宛(電報)  
支 北平、在支各總領事、廈門へ轉電セリ

陳濟棠没落の原因および国民政府中央の広  
東・廣西対策につき甘介侯内話について

廣 東 7月22日後発  
本 省 7月23日前着

第三〇四號

二十一日甘介侯本官ヲ答訪ノ際内話スル所ニ依レハ  
一、陳濟棠沒落ノ主因ハ時局以來彼ハ事毎ニ優柔不斷ナリシニ基クモノニシテ最初季、白ニ對シ廣西軍ノ入粵援助ヲ求メタルニ付季、白ハ梧州へ兵ヲ集中シタルモ間モナク之ヲ斷リ更ニ時局逼迫ノ爲再ヒ來援ヲ請ヒタルモ既ニ時機ヲ失シタリ廣西軍ハ餘リ多く入境シ居ラス兩廣軍ノ關係ニ付兔角ノ風說アルモ目下ノ處先ツ衝突ヲ見ルカ如キコトナカルヘシ  
二、中央ハ李、白ニ對シテ廣西ニ對シテ武力ヲ用ヒサル旨ノ保障ヲ與ヘ居ルニ付中央ト廣西トノ武力衝突ヲ見ルコトナカルヘク廣西モ遠カラス和平解決ヲ見ルヘキモ萬一李、白カ下野スルコトアラハ中央ノ廣西統治ハ頗ル困難トナ

リ共匪跋扈スル虞アリト

三、余漢謀ハ本二十二日午後當地ニ到着ノ豫定ナリ中央政府  
ハ續々高級官吏ヲ任命シツアレハ遠カラスシテ廣東省  
政府ハ全部中央系ニテ改組セラルヘク日下責任ヲ以テ御  
話シ得ル者一人モナキ状態ナリ

支、北平、天津、南京、漢口ヘ轉電シ香港ヘ暗送セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

~~~~~

840 昭和11年7月22日 在廣東中村總領事より 有田外務大臣宛(電報)

李宗仁・白崇禧ら廣西勢力の対中央妥協方針

について

廣東 7月22日後発 本省 7月23日前着

第三〇五號

當方面漢字紙ノ報道ヲ綜合スルニ李宗仁ハ南寧歸還後十九、  
二十ノ兩日ニ亘り軍、政、黨聯席會談ヲ開催中央對策ヲ協  
議シタル處白崇禧ヲ除キ何レモ内戰ヲ欲セス和平的解決ヲ  
願ヒ中央ニ對シテハ今後其ノ命ニ從フヘキ旨電報スヘシト

表示シタルカ爲李、白ハ右方針ニ基キ總參謀長李品仙ヲ入  
京セシメ中央ノ了解ヲ求ムルコトトシ別ニ其ノ際決定セル  
左記廣西側方針ヲ李、白連名ニテ中央ニ打電シ指示ヲ仰ク  
コトトナリ尙從來廣東ニ設置シアリタル廣西軍辦事處モ余  
漢謀ノ了解ヲ得レハ存續セシムルコトニ決シタル由ナリ

(一)廣東側ト同一行動ヲ執リテ全國ノ和平統一ヲ促進スルコ  
ト

(二)中央ノ發令通り李、白ハ廣西正副綏靖主任ニ、黃旭初ハ  
廣西省主席ニ就任スルコト

(三)李、白、黃三名ハ最短期間内ニ和平表示、中央服從ノ連  
名通電ヲ發スルコト

四地方經濟發展ヲ助クル爲毎月軍、政各經費ノ補助方稟請  
スルコト

(五)中央ハ建國大綱ニ基キ廣西ノ自治ヲ許シ廣西軍ヲ駐屯セ  
シメ中央軍ヲ入レサルコト  
支、北平、在支各總領事ヘ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

841 昭和11年7月28日 在南京須磨總領事より 有田外務大臣宛(電報)

蔣介石の廣東省政府改組構想について

南京 7月28日後発 本省 7月28日夜着

第五四二號

往電第五三〇號ニ關シ

行政院側及高宗武等ヨリノ消息ヲ綜合スルニ蔣介石ハ兩廣  
切崩ノ爲約二千萬元ノ買收費ヲ追加シタル趣ニテ此ノ機會  
ニ兩廣ヲ全然新タニスル爲黃紹竑ヲ派スルコトトナレルカ  
廣東ニモ同様ノ措置ヲ執ル爲元來張發奎ヲシテ陳濟棠ニ代  
ラシムル目論見ナリシ處余漢謀寢返ノ功ニ依リ暫クハ之ニ  
軍權ヲ委ネ其ノ中張ヲ以テ代フルコトナルヘク又廣東省  
主席ニハ吳忠信ヲ据ヘントノ案モアル處林雲陔ハ元來陳ノ  
反蔣計畫ヲ阻止シタル事實モアリ旁暫クハ留任セシ  
ムヘキモ各廳長ハ勿論甘介侯ヲモ最近ノ機會ニ交替セント  
スル模様ナリ

冒頭往電ノ通り轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

~~~~~

842 昭和11年7月28日 在廣東中村總領事より 有田外務大臣宛(電報)

廣西勢力と国民政府中央との対立先鋭化について

廣東 7月28日後発 本省 7月28日夜着

第三一二號

李、白ノ罷免以來當地漢字紙ハ一齊ニ廣西對中央關係ノ尖  
銳化ヲ報道シ居ル處豫テ余漢謀トノ聯絡ノ爲當地滯在中ナ  
リシ第四集團軍參謀長張任民ハ藍衣社員ニ附纏ハレ居ル趣  
ニテ廿七日朝廣西ニ引揚ケ又第四集團軍辦事處モ同日閉鎖  
セラルニ至レルカ右ハ廣西側ノ余漢謀トノ聯絡圓滿ヲ缺  
クニ至リタル結果ト認メラル

廣西對中央關係ニ關シ當館入手ノ情報ヲ綜合スルニ  
一、廣西軍ハ二、三日以前ヨリ湖南省境方面ニ増兵シ戰備ヲ  
急キ全省ノ河船ハ殆ト全部軍隊ノ輸送用ニ徵發サレ一般

交通ニ多大ノ支障アリ

二、李、白ノ態度硬化ニ伴ヒ之ト密接ナル關係ニアル廣東軍  
中ノ陳濟棠直系部隊(第二、第四軍ノ各一部及陳維周ノ  
警備軍)ハ廣西軍起テハ呼應スルヤノ說行ハル

1126

1127

三、右ニ對シ余漢謀ハ廿六、七日ノ兩日ニ亘リ陳誠等ト協議

シ第二師及第三師ヲ西江及肇慶ニ配備シ福建ノ蔣鼎文ヲ

東江ニ移駐セシムルコトヲ請訓シ陳誠ノ三個師モ場合ニ

依リテハ廣東ニ入レ後方警備ニ充ツル由ナルカ廣東軍ハ

二、三日前ヨリ鐵道ニ依リ西江方面ニ移動中ニテ廣東ニ

於テモ昨廿七日小汽船及渡船各十隻軍部ニ徵發セラレタ

リ

支、北平、在支各總領事、廈門ヘ轉電シ、香港ヘ暗送セリ

支ヨリ上海ヘ、漢口ヨリ長沙ヘ轉報アリタシ

~~~~~

843 昭和11年8月1日 在廣東中村總領事より 有田外務大臣宛(電報)

日本の廣西援助工作に関する中國紙報道振り

について

廣東 8月1日後発

本省 8月1日夜着

第三二二號

廣西時局緊張以來漢字紙ハ廣西ト日本トノ間ニ何等カノ連絡アルカノ如クニ邪推シ毎々「某國」ナル語ヲ以テ日本ヲ

八月一日民國日報九江電

廣西當局カ某國ニテ註文シタル紙幣八千萬元ハ廿四日梧州着ノ際全部海關ニ沒收セラレ廿八日廣西軍ノ爲武力ヲ以テ取戻サレタリ

北平、在支各總領事ヘ轉電シ、香港ヘ暗送セリ

南京ヨリ支ヘ轉報アリタシ

~~~~~

844 昭和11年8月(5)日 在廣東中村總領事より 有田外務大臣宛(電報)

李宗仁らの開戦決意など廣西方面の情勢に関する情報について

廣東 発

本省 8月5日夜着

第三二六號

本月三日梧州ヨリ引揚ケ來リタル邦商ハ廣西方面狀況ニ付

左ノ通り語リタリ

一、李、白ハ中央ト一戰ヲ覺悟シ居ルモノノ如ク三個師ヲ梧

州ニ集中シ居レルカ未夕開戦シ居ラス廣東側ヨリモ陸軍

及海軍ヲ續々溯江セシメツツアリ

聯想シ得ルカ如ク種々廣西援助ノ報道ヲ掲載シ居レルカ最近ニ於ケル主要ナル記事左ノ通

廿八日越華報上海電

確實ナル報道ニ依レハ本月二十七日大連ヲ出帆シ南支ニ

向ヘル某汽船ハ奉天兵器廠ニテ改造セル銃器、山砲、戰鬪機數臺及彈藥、軍用品九百餘噸ヲ積載シ居リ既ニ四十

八時間前ニ南部某重要島ニ到着シタルカ某國軍艦ト協力

シ廿九日目的地へ安全ニ送達サレル筈ナリ

達スル由

廿九日越華報上海電

確實ナル報道ニ依レハ本月二十七日大連ヲ出帆シ南支ニ

向ヘル某汽船ハ奉天兵器廠ニテ改造セル銃器、山砲、戰

鬪機數臺及彈藥、軍用品九百餘噸ヲ積載シ居リ既ニ四十

八時間前ニ南部某重要島ニ到着シタルカ某國軍艦ト協力

シ廿九日目的地へ安全ニ送達サレル筈ナリ

八月一日現象報香港電

廣西ニテハ近來某國ヨリ大量ノ紙幣到着シ之ヲ亂發商人

ニ使用方強行シ居レルカ又白銀ヲ集メテ某國ニ送リ武器

ヲ購買セントシ連日佈告ヲ出しシ居レリ且下某國人ノ廣西

省内ニアル者ハ一千ノ多キニ達シ軍事、政治工作ヲ擔當

シ居レリ

二、梧州ヨリ香港間ノ定期船ハ客月末迄毎日二隻ナリシモノ

現在ハ一隻トナリ避難民ニテ頗ル雜沓ス

三、廣西側ノ抗日カ擬裝ナルコト一般市民モ理解シ居リシカ

昨今ハ中央側ニテ李、白ノ兩名ハ内戰ノ意思ナキモ日本

政府カ將校ヲ派遣シテ後押シ軍隊ヲ指揮セシメ居ル爲李、

白モ已ムヲ得ス開戦ト決意セリト逆宣傳行ハレ居ル爲ニ

愚民ハ日本ニ怨嗟ノ聲ヲ向ケ居レリ

四、廣西紙幣ハ廣東法幣ニ對シ三割ニ低下シ尙下降ノ傾向ニ

アリ物價極度ニ騰貴シ農民ハ紙幣ノ收受ヲ嫌ヒ農產物ヲ

手放サス且田舎ヨリノ買出ナキ爲各都市ハ空前ノ不景氣

ト糧食難ニ陥リ居レリ之カ爲當局ハ極力糧食ノ節約統制

ニ努メ民間ノ糧食ヲ買上クルト共ニ軍隊ノ給與ハ朝夕一

人當リ白米一椀ト定メ其他ハ雜穀ニテ間ニ合ハセ中央側

ノ經濟封鎖ニ備ヘ居レリ

支、北平、南京ヘ轉電セリ

~~~~~

845 昭和11年8月10日 在廣東中村總領事より 有田外務大臣宛(電報)

廣西勢力の対中央和平条件について

広 東 8月10日後発  
本 省 8月10日夜着

## 第三三二號

當地新聞報道ヲ綜合スルニ廣東側ハ八日鄧青陽及香翰屏ヲ

南寧ニ飛ハシ最後ノ和平解決ヲ斡旋中ナルカ廣西側ニハ李、

白ニ下野ノ意アルモ

（）全廣西軍ヲ甲種師團四ヶ師ニ縮編ス

（）廣西建設費トシテ中央ハ軍費以外ニ毎月百萬元、廣東省

ハ三十萬元夫々補助ス

（）李濟琛ヲ廣西總司令兼綏靖主任ニ任命シ民政、財政、黨

務ハ中央ヨリ大官ヲ派遣管掌セシムルコト

等ノ強硬ナル交換條件ノ提出アリタル爲ニ使者鄧ハ一應蔣

介石ニ請訓シタル趣ナリ

尙蔣ハ九日更ニ李、白ニ對シ十五日迄ニ態度ヲ明示スヘキ

旨申送リ同時ニ雲南、貴州、湖南及廣東ノ四省軍隊ニ對シ

テハ前進停止ヲ命シタル由ナリ

支、北平、在支各總領事、廈門ヘ轉電セリ

~~~~~

北平、南京、天津、青島ヘ轉電セリ

米、紐育ヘ轉電アリタシ

~~~~~

847 昭和11年8月18日

有田外務大臣宛（電報）

在廣東中村總領事より

国民政府中央の廣西問題解決方針は和戦両論

対立しいまだ決定を見ない情勢について

広 東 8月18日後発

本 省 8月18日夜着

第三五二號

往電第三三七號ニ關シ

對廣西問題ニ關シ其ノ後ノ各報ヲ綜合スルニ馮玉祥ハ依然

華北問題抗日備戰ヲ第一ノ目標トシ余漢謀ハ又自己配下ノ

軍隊中叛亂者アリ（團）結モ亦充分ナラサル等ノ理由ニ依リ

何レモ平和方針ニテ努力中ナルカ蔣介石ハ飽迄李、白ノ下

野ヲ要求シ武力解決ヲモ辭セサラントスル形勢ニアリ此ノ

間ノ消息ヲ説明スヘキ材料ハ

（）張發奎ハ余漢謀宛電報中二

「日本ハ曩ニ陳濟棠カ私心ヲ以テ事ヲ構ヘントセル弱點

846

昭和11年8月13日 在中國川越大使より

有田外務大臣宛（電報）

西南勢力への日本側援助に関する蔣介石の発

言につき米国記者内話について

上 海 8月13日後発

本 省 8月13日夜着

## 第六四六號（極秘）

十二日「アーベンド」ノ當地滯在中ノ須磨ヘノ内話ニ依レ

ハ紐育「タイムス」「スチール」ハ十日廬山ニ於テ蔣介石

ト會談（蔣夫人通譯）セル處其ノ際蔣ハ過般ノ西南時局ニ於

テ日本ハ李宗仁、白崇禧ノミナラス陳濟棠ヲモ援助シタル

ハ眞ニ驚キ入リタリト述ヘタル趣（此ノ點ハ本社ヘ通信セ

サリン由ナリ）ナルカ右會談ノ模様ヲ傳ヘタル「スチール」

ノ通信（「アーベンド」内示）中ニハ蔣カ「外部ノ勢力（日本）

カ陰謀ニ依リ統一ヲ妨害シ得サル限り支那ハ結局統一セラ

ルルモノト言ヒ得ヘシ」トカ「英（米）ノ二大「アングロサ

クソン」國ハ支那ニ對シ絶エス好意ヲ示シ來リ支那ハ物質

上、精神上多大ノ利益ヲ得タリ」トカ「支那ハ其ノ再建設

ノ爲國際協力ヲ歡迎ス」トカ述ヘタル旨記載セラレ居レリ

ニ附込ミ北支經營ヲ爲スヲ得タリ且下中央政府ハ對日外交戰ニテ着々效果ヲ收メツツアルモ我國防不充分ナル際ナレハ餘リ聲ヲ大ニスルコトナク總テ堅實ニ進ムコト肝要ナリ既ニ李濟琛ニ對シテモ假令廣西カ眞誠ノ抗日ヲ即行スルモ中央ヲ離脱シテハ成功ノ望絶無ナレハ和平解決ヲ計ラレ度シト電報シタル旨

述ヘ居レリ

（）余漢謀ハ孫科宛電報中廣西安協交渉ノ經過ヲ述ヘ

「李、白ハ余ノ派遣セル使者ニ對シ一名丈ケ廣西ニ留マ

ラシムルコトヲ求メ居リ此ノ儘全部下野スレハ日本ト勾結ノ罪名ヲ永久ニ拭フコト能ハサルニ付飽迄中央ト交戰

セサルヲ得スト主張シ讓ラサル處余ハ日本トノ密約ナルモノヲ信セス又廣西地方民ノ士氣ヲ維持スル必要アルノ

ミナラス廣西ノ四圍ニハ中央ノ勢力ニテ鞏固ナル包圍ヲ

形成シ居ル狀況ニ鑑ミルモ廣西ノ民政、財政ヲ中央ノ手

ニ引渡サシメタル後ハ李、白中一人ヲ廣西ニ留メ置クコト何等大勢ニ影響ナカルヘキニ付右蔣ニ婉曲ニ説述セラ

レ更ニ黃紹竑ノ南下ヲ阻止サレ度シ」

ト妥協斡旋方依頼シタルカ右ニ對シ孫科ハ

「廣西問題ニ關シテハ馮玉祥ニテ蔣ニ忌憚ナク進言シ居レハ之ニ一任シ輕々ニ發言スルコトナク引續キ平和解決ニ努力アリ度シ」

ト電報セリ(出處極秘)

支、南京へ轉電セリ

~~~~~

848 昭和11年8月25日 在南京須磨總領事より

有田外務大臣宛(電報)

### 蒋介石の対広東省政策について

南京 8月25日後発  
本省 8月26日前着

第六〇三號

往電第五四二號ニ關シ

最近行政院側ヨリ極秘探知スル所ニ依レハ蔣介石ハ陳立夫及宋子良等ヲシテ廣東黨務及財政ヲ切迫セシメ殊ニ宋子良ノ手ニ依リ廣東現銀六千二百萬元集中セラレタル一方蔣ハ中央軍ノ入廣ヲ餘リニ取急キ既ニ二萬人黃埔ニ來着シタル外蔣鼎又ノ部隊約四萬東江地方潮州ニ集中シタル爲豫テ陳濟棠ニ忠實ナリシ三十六團ノ純廣東部隊ヲ中心トスル一般

廣東軍隊ノ中央軍ニ對スル反抗熾烈トナリ最近新聞等ニハ廣西問題解決ノ爲蔣ハ離廣シ難シト書カシメ居ルモ實ハ右ノ如キ廣東問題ニ腐心シ居ルカ爲ニシテ茲一箇月位ハ離廣シ難カルヘシト觀測セラル他方數日前來寧セル章士釗ノ報告ニ依レハ李、白ハ右廣東内部ノ内紛ニ目ヲ着ケ强硬要求ヲ提出シ又食糧ノ他廣西軍ハ少クトモ六箇月ヲ支ヘ得ヘシトノコトナル爲蔣ハ軍事委員會ニ對シ何鍵等ニ迄廣東省境ニ進出ノ命令ヲ出サシムルニ至レル由ナリ

支、在支各總領事、廈門へ轉電セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

有田外務大臣宛(電報)

~~~~~

849 昭和11年9月1日 在廣東中村總領事より

有田外務大臣宛(電報)

### 廣西勢力と国民政府中央との妥協交渉の進捗状況について

廣東 9月1日前発  
本省 9月1日後着

第三七三號

「廣西問題ニ關シ中央ハ其ノ後モ引續キ鄧世增ヲ南寧ニ派遣

シ和平解決ニ努力シ廣西側ノ一部要求ヲ容レ李濟深<sup>(1)</sup>、陳銘樞ノ逮捕令取消、中央軍ノ省境撤退等ヲ實行シタルモ依然

李、白ノ離桂ヲ主張シ居リ爲ニ交渉何等進捗シ居ラス一方廣西軍ハ中央軍ノ後退ノ隙ニ乘シ突如南路ニ進出シ獨立第一師ハ二十五日廉江ヲ占領シ一部ハ引續キ合浦、北海ニ入

リタルカ白ハ二十六日附ヲ以テ中央側カ北江、西江及貴州、湖南ノ省境ヲ封鎖シタル爲省民ノ日用必需品特ニ食鹽輸入ノ道ハ南路ノ封鎖シタルニミトナリ同方面モ亦中央軍ニ封鎖サレントスル惧アリ豫メ之ニ備フル爲翁照垣ヲ派遣シタル次第ニシテ

ト協議ノ結果王寵惠ヲシテ最後ノ妥協斡旋ヲ試マシメ其ノ結果ヲ見テ武力行使ニ出ツル意図ナリト傳ヘラル

支、北平、在支各總領事へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

850 昭和11年9月7日 在廣東吉竹總領事代理より

有田外務大臣宛(電報)

### 廣西勢力と国民政府中央との間に妥協成立について

廣東 9月7日後発  
本省 9月7日後着

第三八一號

往電第三七三號末段ニ關シ

各方面ノ情報並ニ新聞報道等ヲ綜合スルニ居正、程潛、朱培德ノ三名ハ中央側代表トシテ二日南寧ニ至リ廣西側ト平ハ何等支障ナキニ拘ラス事實ヲ枉ケテ經濟封鎖ヲ云々スル

ハ出兵ノ口實ニ過キストテ即日撤兵アリ度キ旨電報シタリ

尙廣西側ノ南路出兵ハ和平交渉ニ一沫ノ不安ヲ與ヘ居ルモ未タ中央軍トノ間ニ交戦行ハレ居ラス蔣介石ハ三十日王寵

惠、居正、張發奎、何鍵、熊式輝、陳誠、余漢謀、程潛等

遊セシム

二、李宗仁ヲ廣西綏靖主任ニ任命ス

三、李宗仁ハ自發的ニ廣西軍ノ現在數六十餘團ヲ六箇師(二

十四箇團)ニ改編シ引續キ廣西省内ニテ訓練ス右軍事費

ハ中央ヨリ支給ス

四、中央側ハ十九路軍ノ復活ヲ承認シ暫時廣東省南路。ニ駐屯

セシム

五、中央側廣西省黨務政治ノ全權ヲ掌握シ之ヲ整理シ黃旭初ヲ省主席ニ任命ス

六、廣西カ外國人ト締結セル礦山開發武器購入ノ契約ハ新政府ニテ斟酌承認シ引續キ處理ス

七、廣西新政府成立ト同時ニ阿片、賭博ノ禁止ヲ實施ス

八、以上ノ條件實施ト同時ニ李、白ハ中央擁護ヲ通電ス

ノ「ライン」ニテ妥協交渉纏マリ一應蔣介石ノ同意ヲ得タル上更ニ李、白ニ通告スルコトトナリタル趣ニテ前記三代表ハ四日廣西代表劉爲章。同伴歸粵蔣ニ報告シタルカ蔣ハ六

日路透記者ニ對シ白崇禧カ廣西問題處理ノ爲來粵ヲ承諾シ居ルコト並ニ今後流血ヲ見シテ廣西問題ヲ解決シ得ヘキ

コトヲ語リタルカ朱、劉、居等三代表モ同日談話ノ形式ヲ以テ今回李、白、黃等ト數次ノ懇談ノ結果廣西側ノ愛國精

神及國防意見カ中央ノ救亡圖存ノ方針ト一致シ居ルヲ發見

シ李白ハ統一ノ擁護、中央ノ命令接受ヲ表示シタルカ蔣介石ハ李、白ノ救國意見ヲ嘉納シ既ニ西江、南路ノ各部隊ニ即日移動ヲ命シタリト發表スル所アリ廣西代表劉爲章ハ一兩日中ニ南寧歸還ノ筈ナルカ以上ヨリ見テ中央、廣西ノ妥協ハ略成立チタルモノト傳ヘラル  
尙本日ノ各紙ハ南京電トシテ李宗仁ノ廣西綏靖主任、白崇禧ノ軍事委員會常務委員任命ヲ報道シ居レリ  
支、北平、在支各總領事へ轉電シ香港へ暗送セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

851 昭和11年9月11日 在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

廣西勢力に対する妥協の結果蔣介石の立場は

弱まりつあるとの観測について

南京 9月11日後発  
本省 9月11日夜着

第六八二號  
往電第六〇三號ニ關シ

十一日例ノ情報ニ依レハ蔣介石ハ元來武力ニ依リ廣西問題

第六八一號  
往電第六八二號ニ關シ

南京 9月14日後発  
本省 9月14日夜着

南 京 9月14日後発  
本 省 9月14日夜着

第六八九號  
往電第六八二號ニ關シ

大使ヨリ

十二日張憲章。カ同盟杉本ニ語ル所左ノ通り何等御参考迄シメタルモ蔡廷楷<sup>(脚注)</sup>等ハ廣西軍ト並ヒ李宗仁トハ獨立シテ立行ク軍資金ノ支出ヲ要求セルニ蔣及廣西派ニ峻拒セラレタル結果劉湘派及二十九軍等ト呼應シ抗日ニ終始センコトヲ企テツツアル由ニテ蔣ハ結局兩廣問題ノ爲危難ナル地位ニ陥リツツアリト觀ラレ居レリ

支、北平、在支各總領事、香港、廈門へ轉電セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

~~~~~

852 昭和11年9月14日 在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

両広事件解決後の国内情勢が蒋介石の日中國  
交調整交渉に与える影響などに関する情報について

<sup>(2)</sup> 右ノ國內情勢ハ蔣カ日支關係ヲ調整セントスルニハ決シ  
テ有利ナリトハ言ヒ難キモ同時ニ又蔣介石ヲシテ何トカ

日支關係ヲ調整セサルヲ得サル退引ナラヌ立場ニ立タシ

ル譯ナリ

ムルモノニシテ蔣トシテハ二中全會ニ於テ公約セル領土  
主權ノ確保及内政不干涉ノ二條件ニ抵觸セサル方法ナラ  
ハ必スヤ日本トノ妥協ニ全力ヲ注クヘキ力要スルニ蔣ノ  
態度ハ一ニ今次ノ成都事件其ノ他ニ關スル日支會談(北  
支問題カ最大ノ問題タルコト勿論ナリ)ノ結果如何ニ懸

三、來ル十六日李宗仁ノ綏靖主任就任式アル筈ニ付白崇禧ハ  
十七日ニアラサレハ廣東ニ來ラサルヘク蔣ノ歸寧ハ其ノ  
後間モナクナルヘシ云々

支、北平、在支各總領事、廈門、香港へ轉電セリ

~~~~~

## 2 西安事件

853

昭和11年12月13日

在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

西安事件発生および中央常務委員会の対策決

議につき高宗武内話について

別電

昭和十一年十一月十三日発在南京須磨總領事

より有田外務大臣宛第一〇三五号

第一〇三四號(大至急)  
十二日夜中央常務委員會決議左ノ通

(一)行政院ハ副院長孔祥熙ニ於テ責ヲ負フ

(二)軍事委員會常務委員ヲ五人ヨリ七人ニ増加シ何應欽、程潛、李烈鈞<sup>(鈞)</sup>、朱培德、唐生智、陳紹寬ヲ常務委員ニ追加

(三)軍事委員會ハ副委員長馮玉祥及常務委員ニ於テ責ヲ負フ

(四)軍隊ノ指揮ハ軍事委員會常務委員軍政部長何應欽ニ於テ  
責ヲ負フ

(五)張學良ノ本兼職ヲ褫奪シ軍事委員會ノ查問ニ附シ其ノ軍

隊ハ軍事委員會ニ直屬セシム

~~~~~

本十三日早朝高宗武ハ十二日午前三時蔣介石ハ西安ニ於テ  
張學良ニ抑留セラレタル旨ノ簡単ナル消息昨夜十一時入手  
シタルニ付直ニ十一時半ヨリ中央常務委員會ヲ開催シ別電  
第一〇三五號ノ如キ決定ヲ爲スト共ニ他方昨日午後三時頃  
西安兵變ノ簡單ナル報道モアリ四時當地航空委員會ヨリ不  
取敢偵察機ヲ送リ置キタルニ付何レ本日中ニハ更ニ詳細判  
明スヘシト内報越セリ